

Illustrator組版の問題点とその解決

イラストや図版などのグラフィック作成だけでなく、
誌面全体のデザインにも活用されるAdobe Illustrator。
Illustratorで組版する際の問題点と解決方法について紹介します。

■Illustrator組版の問題点

Illustratorは非常に優れたビジュアルデザイン制作用のアプリケーションで、ポスターやチラシ、ロゴなど様々なデザイン制作に広く活用されています。書籍や雑誌などページ物のデータ制作にIllustratorを使用するデザイナーも少なくありません。

しかしIllustratorでページ物のデザインや組版を行うとなるといくつかの問題が出てきます。

Illustratorはその仕様上、画像を配置するとデータ容量が大きくなりがちです。特に、大きな画像を縮小して配置するとそれが顕著です。データ量の増大は、アップロード・ダウンロード・保存に時間がかかる、作業効率が低下する、データが破損する確率が高くなる等、デメリットしかありません。

文字中心の書籍組版では、作業をいかに自動化できるか、一括処理できるかが仕事の効率や品質に大きく影響してきます。Illustratorにはそのような組版支援機能がInDesignに比べて少なく、多くの処理を手作業で行わなければなりません。

また、Illustratorはもともとページという概念を持たないアプリケーションです。現在のバージョンでは複数のアートボードをひとつのドキュメント内に作成できますが、それはページではなく個々に独立した台紙に過ぎず、InDesignのように自動でノンブルを生成することができません。ページの挿入、削除、左右移動が発生した場合、全て手作業で修正する必要があります。ページ物の制作にIllustratorが向かないのはこのような特性があるからです。

Illustratorがページ物の組版に向かない理由

- ・画像を配置すると容量が大きくなる
- ・ページという概念がない
- ・文字のアキ量設定が豊富ではない
- ・正規表現スタイル機能がない
- ・ルビを振る機能が搭載されていない



■Illustratorの組版作業方法

デザイナーが作成したIllustratorデータを引き継ぎ、当社で組版を行う場合、大まかに以下の3通りの方法があります。

①Illustratorデータのまま作業し完結

表紙やカバーなど本文以外のデータがIllustratorで入稿した場合にはこのパターンとなります。すでに文字組が行われている完成データの場合が多く、修正が入った際にもIllustrator上で対応します。

②IllustratorデータをInDesignに配置する

ページ物の本文データがIllustratorで入稿するパターンです。ページ物は面付して印刷しますが、面付するためにはページが切り分けられ、ページ順が設定されていなければなりません。そのためにはInDesignに配置することが必要です。

InDesignに貼り込むことで、ノンブルやインデックスの全体統一、ノンブルの変更やページの左右移動といったことも容易にできるようになります。ただし、あくまで中身はIllustratorデータですので組版作業の効率そのものは改善できません。

③InDesignで組み直す

Illustratorで作成されたデザインデータがフォーマットとして支給された場合はこのパターンになります。見た目がすべて一致するようInDesignでフォーマットを再現し、それと同時に効率的な組版が行えるよう文字組やスタイルシートの設定をしていきます。

全ページIllustratorで作成されたページ物のデータを、それによって大幅な作業効率の改善が期待できる場合は、InDesignで作り直すこともあります。

ページ物のデータは、強力な組版機能を備えたInDesignで作成することが望ましいと言えます。お手持ちのIllustratorデータのInDesign化を検討される際は、当社にご相談ください。最も効率よく校正にも手間のかからない方法を提案します。

Illustratorデータの問題解決事例

▶ 画像を自動でリサイズしデータ容量を抑える

多くの写真が配置された雑誌のデザインデータが入稿しましたが、ほとんどの画像がIllustrator上で20~30%程度に縮小されていました。そのためデータ容量が不必要に大きくなっており、作業効率が低下し、データのやり取りにも多くの時間を要していました。当社で画像のリサイズを自動で行うスクリプトを開発しデータ容量を抑えました。



リサイズ前：データサイズの大きな画像を20%程度まで縮小して貼り込んでいるため、Illustrator全体のデータ容量も大きくなっています

リサイズ後：スクリプトを使用して画像のサイズを実際の印刷に使う大きさにまでリサイズ。Illustratorの容量が大幅にダウンしています

▶ Illustratorのルビ振り支援ツールの導入

全ページIllustratorで組まれたデータが入稿しました。総ルビの指定だったのですが、IllustratorにはInDesignのようなルビ機能がないためデザイナーがルビを入れることができず、当社でルビ入れ作業を行うことになりました。当社で導入しているルビ振り支援ツールを使い、Illustrator上で総ルビ処理を行いました。



ルビ入れ前：Illustratorにはルビ機能がないため、ルビを振る場合は親文字の上に小さなルビ文字をひとつずつ手動で配置する必要があります

ルビ入れ後：ルビ振り支援ツールを使うことでIllustrator上でも選択されているテキストに自動でルビを付けることが可能です

▶ 表組み作成を効率化するスクリプトの活用

当社では基本的に表組みはInDesignで作成するのですが、デジタルメディアで図表を二次利用したいという要望により、Illustratorデータにする必要がありました。IllustratorにはInDesignのような表組み作成機能がありません。そこで、Excelで作成された表組みデータをIllustratorに取り込むスクリプトを活用し対応しました。

The slide illustrates a workflow for creating a multi-page document from a single Excel table. The 'before' table is a standard Excel grid with columns for months (9月 to 7月) and rows for subjects (一般教養, 経済学, 政治学, 行政学, 国際関係, 社会学, 法学, 経済学, 経営学, 国文学). The 'after' layout shows a more complex, multi-page document structure. It includes a pink header with the title '科目' and a table of contents. The 'after' layout also shows a detailed schedule for each subject, including specific dates and times. A red arrow points from the 'before' table to the 'after' layout, indicating the transformation process.

before

科目	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
一般教養	共通1日1時間(3周)						共通2日1時間(3周)				
							共通3日1時間(3周)				
経済学							共通4日1時間(3周)				
政治学							共通5日1時間(3周)				
行政学							共通6日1時間(3周)				
国際関係							共通7日1時間(3周)				
社会学							共通8日1時間(3周)				
法学							共通9日1時間(3周)				
経済学							共通10日1時間(3周)				
経営学							共通11日1時間(3周)				
国文学							共通12日1時間(3周)				

after

科目	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
一般教養	Aを1日1時間(3周)						Bを1日1時間(3周)				
経済学							Cを1日30分~1時間(3周)				
政治学							生物、地学を1日30分~1時間(3周)				
行政学							Dを3周				
国際関係							Fを5周				
社会学							Fを5周				
法学							Fを使用				
経済学							Fを5周				
経営学							Fを5周				
国文学							Fを5周				

上がExcelで入稿した表組み。InDesignには表組み機能があるためそのまま取り込みが可能ですが、しかしIllustratorにはその機能がいないため、スクリーンショットを使ってExcelのデータをIllustrator上で再現しました。

上がExcelで入稿した表組み。InDesignには表組み機能があるためそのまま取り込みが可能です。しかしIllustratorにはその機能がないため、スクリプトを使ってExcelのデータをIllustrator上で再現しました。